

実証の背景・目的

【背景・課題】

患者の入退院時や検査時に、患者に依らず必ず説明しなければならないことに対し、看護師が多くの時間を割いているという現状があります。

【目的】

- ✓ 入院や検査説明の代替による**業務効率化**
- ✓ 動画による**説明品質の均質化**
- ✓ 接触機会削減による**感染症対策**

実証の概要



利用したロボット

【実証方法】

- ✓ 入院説明や検査説明の実施場所まで**自律移動および誘導**
- ✓ Temiの画面上に、予め収録した入院説明や検査説明（消化器内視鏡検査）の**動画を放映**

ロボット導入効果

ロボットによる対応
(対象期間：11/29～12/5)



- ✓ 入院説明は**33.3%**の業務をロボットに代替
- ✓ 検査説明は**100%**の業務をロボットに代替

実証の様子

① 実行するタスクと行先を指定



② 目的地まで自律移動



③ 目的地に到着後、説明開始



④ 終了したら看護師に通知 / その間院内の説明



まとめ

【実証の成果】

- ✓ **入院説明と検査説明の効率化を実現**
ロボットによる入院と検査説明により、看護業務の効率化を実現
- ✓ **入院説明と検査説明の均質化を実現**
ロボットによる説明によって、同じ説明を確実に実施することができ、説明品質の均質化を実現

【課題・解決策】

- ✓ **ロボットと人の役割分担**
ロボットによる説明は質問が気軽にしづらいという意見があり、ロボットの説明後に人が質問を受けるなどの工夫が必要
- ✓ **検査説明動画を増やし更なる業務効率化**
検査説明動画の種類を増やすことによって、ロボットの活用範囲を広げることが必要